

## 2019年度 上智大学卒業式 卒業生代表謝辞

暖かな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。本日は、私たち卒業生のために、このような式典を催して頂き、誠にありがとうございます。曄道学長をはじめ、ご関係の皆様、卒業生を代表して厚く御礼申し上げます。

はじめに、昨今各地で広まっている新型コロナウイルスによって、世界中で多くの方が被害に遭われており、また日々の暮らしや経済活動にも大きな影響が及んでいます。この事態が、一刻も早く終息することを心より願っております。

4年前、春の穏やかな陽の光に包まれた日に、私たちは喜びを胸に抱いて上智大学に入学しました。入学直後に行なわれた上智大学伝統のオリエンテーションキャンプで、新しく出会った仲間とともに大学生活への希望を語りあったことが、つい先日のように思い出されます。

上智大学には充実したプログラムが十分にあり、恵まれた環境の中で私たちは様々なことを経験し学ぶことができました。私自身、学業に励むだけでなく、大学の制度を利用してボランティア活動や交換留学などに挑戦しました。

その中で特に学んだことが2つあります。

1つ目は、私たちは「他者のために生きる」よう常に開かれた存在であることです。「他者のために生きる」ということに関して、とても印象に残っている言葉があります。それは大学1年の必修科目である「キリスト教人間学」の授業である先生が仰っていた「ソフィアン（上智生）は自分のためではなく『他者のために』生きてほしい」というお言葉です。自分の利益や名誉のためでなく、他者のために生きる。この言葉は上智大学の精神そのものを表しており、この4年間ずっと心に留まっています。また私は、専門である神学を通してキリスト教の根本にあるイエス・キリストの生き方がまさに具体的な「他者のため」であったことを学びました。イエスが病人を癒す姿、パンを裂いて弟子に与える姿、そして私たちのために身を献げられた姿、このようなイエス・キリストの生き方によって、今を生きる私たち——特にここ上智大学で成長した私たち——も、他者のために生きるよう招かれているのだと感じました。

2つ目は、国際社会で多様性を認め合い「真の叡智」を追求することに意義があるということです。私は、大学3年の時に交換留学の機会に恵まれ、上智大学と同じイエズス会の大学に留学をし、現地の学生や留学生との関わりをもちました。海外での、人種や言葉の違いを越えた同年代の学生との対話は、人と人との相互理解を深める貴重な経験であったと同

時に、自分自身のそれまでの視野の狭さに気づかされました。今後の社会を担う若者として、グローバルな課題を解決するためには、異なった文化や価値観を持つ人々を理解し互いに手を取り合うこと、そしてよりよい世界を目指すべく「真の叡智」を求め続けることこそが大切であることを実感しました。

私たちは4月から、新しい環境でそれぞれの道を歩んでいきます。昨年上智大学にご来校した教皇フランシスコが仰っていたように、上智大学の教育を受けた者としてよりよい社会と希望にあふれた未来を形成すべく、それぞれに与えられた使命(Mission)を果たし、「他者のために生きる」人として活躍して参りたいと思います。

最後になりますが、本日無事に卒業を迎えることができたのは、ご指導してくださった諸先生方、大学生活をご支援してくださった大学職員の皆様、そして家族の存在があつてこそのことです。私たちをこれまで支えてくださった全ての方々、そしていつも見守ってくださる神さまに、心より感謝申し上げます。

以上、上智大学の更なる発展をお祈り申し上げ、卒業生を代表して謝辞とさせていただきます。

2020年3月24日

2019年度卒業生代表 神学部神学科 赤堀瑛奈